

令和元年 12 月 11 日
川崎市上下水道局

令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

- 1 日 時 令和元年 12 月 5 日（木）19：00～21：00
- 2 場 所 上丸子住宅自治会館（中原区上丸子山王町 1-1413-1）
- 3 対象地域 山王排水樋管周辺地域
- 4 出席者
上下水道局総務部長 大畑 達也
上下水道局下水道部長 鈴木 利之
上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴
上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通
上下水道局下水道部下水道管路課長 小林 康太
上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛
上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利
上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明
上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明
上下水道局下水道部下水道計画課担当課長 白柳 匡基

5 説明会議事

総務部長：

本日は、私どもの説明会にあたりまして、この会館を貸していただきまして誠にありがとうございます。説明会の開催にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。はじめに、このたびの台風 19 号におきましては、多摩川の水位が過去に例を見ないほど上昇いたしました。多摩川の水が、下水道管を逆流して浸水被害が発生いたしました。結果的にこのような浸水被害が発生しましたことにつきまして、お詫びを申し上げます。また、被災された皆様には心から、お見舞い申し上げるしだいでございます。下水道事業者として今回の事態を重く受け止めまして、原因等を検証した上で、今後、同様な事態が発生しても、被害を最小限にできるよう、対策をしっかりと講じてまいりたいと考えているところでございます。本日は、被害の状況、対応状況等について説明をさせていただき、出席者の皆様のご質問やご要望の方を伺ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

司会：

続きまして、説明会の進行に関し、2点ほどご説明をさせていただきます。はじめに、説明会にご参加されている方、個人が特定できるような写真や動画の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。次に、この説明会の記録を作成するために、録音をさせていただいておりますのでご了承ください。それでは、配布した資料につきまして、管路保全課長の後藤から説明をさせていただきます。

管路保全課長：

お配りさせていただきました資料について、ご説明させていただきます。よろしくお願ひします。申し訳ありません、座って説明させていただきます。右下にページを記載させていただいております。山王-2 ページをご覧ください。こちらは、浸水被害が発生をいたしました山王排水樋管周辺地域の位置図でございます。右下の凡例にもお示しをしておりますが、赤い丸印は山王排水樋管が設置されている場所を示しております。この山王排水樋管の役割は、緑色の線で囲われた丸子その 1 排水区に降った雨を集めて、速やかに多摩川へ排水するための施設となっております。この丸子その 1 排水区は、汚水と雨水を同一の下水道管で排水する合流式下水道となっております。今回の浸水原因についてでございますが、浸水箇所的大量の土砂が堆積していた状況を踏まえると、想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて、地盤が低い排水樋管周辺箇所で溢れたことによるものと考えているところでございます。続きまして、山王-3、資料の 3 ページをご覧ください。こちらは、山王排水樋管箇所の浸水の概要でございます。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示しをしておりますとおり、位置図の濃い青線の部分が山王排水樋管、青い線が、樋管に接続をしている下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが、上下水道局のパトロールで確認をした浸水の範囲となっております。この浸水の範囲でございますが、職員がパトロールをした時に確認したものでございまして、実際に浸水した範囲と多少の誤差があるかと思ひます。現在、再度の調査を行っているところでございまして、近々、最新の浸水範囲に修正したものを、ホームページに掲載をする予定としております。この点につきましては、ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。また、右側はパトロールの時に撮影した現地の写真でございまして、位置図に記載のある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には撮影した日時を記載しております。この地域では、上下水道局の確認した中では、浸水想定面積が約 45ha、南武沿線道路と南武線の間赤い丸印でお示しをしている地点で、およそ 1.3m の浸水があったことを確認しております。続きまして、次の山王-4 ページをご覧ください。今回の台風第 19 号による山王排水樋管箇所の災害対応について、ご説明いたします。左上の図をご覧ください。赤い丸印でお示しをしている山王排水樋管は、繰り返しになりますが、緑の線で囲んだ丸子その 1 排水区の雨水を多摩川へ排水する施設でございます。この丸子その 1 排水区は合流式下水道の地域であるため、汚水と雨水を同一の管で排水しております。雨天時には、この排水樋管の手前、地図で赤い丸印

の手前の黒い線が分岐をしている場所にある雨水吐室と呼ばれるマンホール内に設置してある堰を超えた下水は、多摩川へ排水される構造となっております。上段右側の樋管ゲート写真にお示ししていますのが山王排水樋管でございます、縦が 2.43m、横が 1.5mの箱型の管きょが 2 つ並んでいる構造となっております。この樋管の縦断図を左下にお示ししております。縦断図に記載の数字は、多摩川の基準面から測定した高さでございます、樋管の底部の高さは 2.822m となっております。樋管に設けているゲートは、上段の右側の全景写真 1、2、こちらの通りの構造となっており、下段の左の縦断図の破線の部分に設置をしております、通常はゲートを上げて樋管を開けておりますが、このゲートを下げて、樋管の出口をふさぐことで河川から下水道への逆流を防止することが可能です。その一方、ゲートを下ろしている間に市街地に雨が降ると、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性がございます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があります、操作手順に従い操作を行っております。次に右下の図をご覧ください。樋管との高さ関係を整理した図をお示ししております。雨水吐室内の堰の高さは 3.49m、山王排水樋管箇所の最低地盤高は 6.545m でございます。なお、この丸子その 1 排水区は、過去に浸水被害が多く発生した地域であったことから、平成 23 年度から平成 28 年度にかけて、時間雨量 52 mm から 58 mm の降雨に対応できるようグレードアップし、さらに既往最大降雨である時間雨量 92 mm においても床上浸水とならないよう、丸子雨水幹線の整備など、浸水対策事業を進めてきたところでございます。続きまして、次の山王-5 ページをご覧ください。この山王排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明いたします。山王排水樋管についてと記載のある、上部の黄色く着色してある箱書き部分をご覧ください。まず、はじめに四角で囲っている、1 番下の 3 点目の箇所に記載をしておりますが、操作の前提といたしまして、降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合は、山王排水樋管ゲートを全開にするとしております。これは、ゲートを閉鎖することとは、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫の原因となりうるため、市街地等で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合には、ゲートを閉じないこととしております。この箱書きの 1 点目をご覧ください。操作の第 1 段階の判断といたしましては、内陸に降雨または降雨の恐れがない状態において、山王排水樋管地点の河川水位が 3.49m を越えた時点で山王排水樋管のゲートを全開、全部閉じることとしております。3.49m は、先ほどご説明をしました堰の高さでございます、この水位を超えると地表面には水は溢れていないものの、下水道の堰を超えて多摩川の水が下水道の中に入り始めることが想定されますので、この時点で判断することとしております。その下の 2 点目でございますが、第 2 段階の判断といたしまして、田園調布（上）水位観測所の河川水位 7.60m において、周辺状況及び丸子ポンプ場の状況を踏まえ、ゲートの開閉を総合的に判断することとしております。次に、中央左の図は、台風第 19 号が上陸した、10 月 12 日～13 日にかけての多摩川の水位と中原区役所での雨量データを時系列で整理したものでございます。青い折れ線でお示ししているのが田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風

第 19 号により河川水位は 22 時 30 分に 10.81m という、田園調布（上）水位観測所での計画高水位である 10.35m を超える観測史上最高水位を記録しております。また青紫の棒グラフは中原区役所での 10 分ごとの雨量観測データを表示しております。この図の右側には、当日の山王排水樋管における活動記録を記載しております。この活動記録をご覧くださいと、今回、山王排水樋管における河川水位は 11 時 30 分に 3.49m を超えたことを現地で確認しておりますが、当時は排水区内で降雨などがあったため、操作手順に基づき、ゲートの閉鎖は行っておりません。さらに、15 時頃に田園調布（上）水位観測所の河川水位が避難判断水位である 7.60m に達したことを確認しておりますが、この時点では、排水区内で降雨が確認されたこと、さらに台風第 19 号がまだ上陸をしておらず、今後大雨が降る懸念があり、ゲートを閉鎖することにより内水氾濫が拡大する可能性など総合的に判断し、操作手順に基づき、ゲートを閉めないという判断を行っております。その後、大雨警報が発令されている状態ではございましたが、降雨が実測されなくなったこと、河川水の影響により下流の丸子ポンプ場への流入が大きくなり、ポンプ場が水没する危険性が高まったこと、河川水位が非常に高い状況であったことから、22 時 52 分に操作手順に基づきゲートの閉鎖を開始しております。その後、段階的にゲートの閉鎖作業を行ない 10 時 50 分にゲートを閉鎖いたしました。また、16 時 50 分に現地にて河川の水位が 3.49m を下回ったことを確認し、ゲートを開く操作を行いました。以上が、10 月 12 日～13 日にかけての山王排水樋管のゲート操作に関する実態でございます。続きまして、下段の黄色く着色している箱書きをご覧ください。今回の浸水原因と今後についてでございます。山王-4 ページで説明をさせていただきましたが、丸子その 1 排水区では、丸子雨水幹線の整備などの浸水対策事業を進めてきたところでございます。しかしながら、今回の浸水は、下水道管理者としては内水氾濫を発生させることがないよう、操作手順に従いゲート操作を行ってきたところでございますが、我々としても経験したことのない事象であり、多摩川が観測史上最高の水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川の水が溢れたことによるものと考えているところでございます。また、今後についてでございますが、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても、被害を最小化できる方策を検討してまいります。具体的にですが、まずしっかりと検証した上で、まずは短期的な取組みとしてゲート操作手順の見直し、水位計や監視カメラの設置など、効果が早く発揮できることから、まず取り組んで被害の最小化に努めてまいりたいと考えております。さらに浸水被害を軽減するハード整備といたしまして、雨水を隣接する排水区へ送るバイパス管の整備にも取り組んでまいりたいと考えているところでございます。次の山王-6 ページをご覧ください。こちらは、山王排水樋管周辺地域の地盤高図と浸水範囲等をお示したのとなっております。こちらにつきましては後ほどご覧いただきますようお願い申し上げます。私からの説明は以上で終わります。ありがとうございました。

司会：

続きまして、質疑応答に入らせていただきます。ご質問等ある方は挙手をお願いいたします。

質問者 1 :

このゲートの閉鎖を開始するのが 12 日の 10 時、夜 10 時ですけども、そこから開始をして、翌日の 10 時 50 分に全閉ってなっておりますけども。これは、通常ゲートを閉めるっていうとこれだけの時間がかかる、通常運転なんでしょうか。

中部下水道事務所管理課長 :

通常、多摩川の水位がない状態ですと、閉めるのに約 1 分程度です。それで、開ける方につきましては、閉めてから開けるのに約 5 分 30 秒位というのが通常の操作の時間になります。今回、22 時 52 分にゲートの閉鎖を開始して、閉まらなかったという事象がございまして、その当時、多摩川が高水位で、現場の状況を、翌朝 13 日の状況から、かなりの流木とか、ゴミとかそういった物がゲートの周りに付着している、絡んでいるという状況から、そういった物の挟まったことによる原因、もしくは多摩川の高水位による影響によってゲートが一部閉まらなかったと、今、考えておりまして、そちらにつきましては、今後、検証を行った上で、今回、ゲートがかなりの時間がかかってしまったということですので、今後、ゲートについても見直しを図っていきたいと考えております。

質問者 1 :

はい、ありがとうございます。

質問者 2 :

多摩川の水位があれだけ上がった状態では、ゲート、開けても閉めても内水氾濫は起こったんじゃないかと。ちょっと、よくわからない私には思えるんですけど、そのへんを教えてくださいいただけますか。

管路保全課長 :

はい。結果、ゲートを、多摩川の水位が今回高くて、こう逆流をしてきて、浸水しました、という現象はございますが、例えば多摩川の水位が高くない状態で雨が強いと多摩川の水位とのバランスによって、どうなるかっていうことになります。ですので、今回の事象を、今後しっかり検証して、今後、先程申しました短期的なものから取り組んで、被害がまず軽減できるものということに取り組んでいきたいと。その後、先程申しました、ハード整備として、隣の排水区に水を持っていけるような整備を進めていきたいと考えております。

質問者 3 :

山王 2 丁目の西側にある、あの、マンホール、ポンプ、制御盤っていうのが、6 年かかって、完成してると思うんですけど、ご覧になっておりますでしょうか。

下水道計画課長：

新しく出来た、ポンプの制御盤だと思うんですけど。

質問者 3：

そうです。それが、今回の水害で、山王1丁目、2丁目の辺は、全然、その効果が無かったと思われるんです。で、天神町とか新丸子のほうには、それが功を奏したらしくて、被害が免れたらしいんですね。その原因ていうのが、なんていうんですか、その下水管っていうんですかね。その直径が、天神町のほうの分は大きかったらしいんです。

下水道計画課長：

今、ご質問された内容についてなんですが、誤解があってはいけないので、私のほうから、もう一度ご説明させていただきたいのですが。山王-4 ページのこちら、ご覧いただきたいのですが、左のところに山王排水樋管の案内図が載ってございまして、まず緑の太線で囲われている部分ですね。こちらが、丸子その1排水区ということで、こちらの地区の排水を最終的に、通常、雨が降っていないときにはこの右下の丸子のポンプ場のところに、下水は行って、その後、加瀬の水処理センターの方まで送って水処理されて出て行くわけですが、雨が降ったときには、一定量になりますと、この山王排水樋管の赤丸のところの分岐のところに堰がございまして、そこを越えて川へ出て行くような構造になってございまして。その手前に、緑色の、細い線にはなってしまうんですけど、丸子雨水幹線という幹線がございまして。こちらにつきましましては、大体、管の大きさが2.4mで、延長が約1.8kmで、ここに貯留できる雨水の量っていうのが約8,200m³、トンですね、貯められる施設はあったんですが。通常この地区に大雨が降った時には、雨の能力を超えた分というのが、ここに貯まるんですけど。実際、今回は、多摩川のほうの影響を大きく受けて、先程、管路保全課長のほうから説明があったと思うんですけど、多摩川のほうから樋管を通じて来た水のほうで、逆にこの効果を十分に発揮できなかった。そういう状況がございました。でするので、通常の状態ですと、水って、高いところから低いところへというか、こちらの山王-6のところを見ていただきたいのですが、こちらで色で分かれていると思うんですけど、ここに丸子雨水幹線の絵が重なってなくて申し訳ないんですが、この部分で、その先ほど制御盤のあった位置が、一番その貯めた雨水幹線の流末になりますので、そこから通常、汲みあげて、この黒い幹線に落として、山王排水樋管にでていますので、決して、この幹線があったから、浸水を助長しちゃったとか、そういうことではございませんので。

質問者 3：

あの、その管っていうのは、そこに何個あるのですか。

下水道計画課長：

管は、こちらの絵のとおり緑色の太い管が入ってございまして、黒い線があると思うんですけど・・・

質問者 3：

質問はですね、ではこの雨水幹線があるのに、なぜ山王のほうに水が溢れてしまって、

それが効果を発揮しなかったのかということを知りたいのですけども。

下水道計画課長：

実際は、この貯留管も一杯になってまして。ここに入る分が無ければ、もう後は地表に出てきてしまう・・・

質問者 3：

その時、工事をしている時に5、6年はかかっていると思うんですけど、その間にそういうことがわかっているんなら、そういう手当てを、なぜしなかったんでしょう。

下水道計画課長：

今回の浸水の大きな原因というのは、多摩川がかつてないぐらい、結果的には水位があがってしまったと・・・

質問者 3：

そればかりですよ。理由。工事を、なぜしなかったかです。その工事と一緒に、その、原因が分かったんですから、もっと早く手当てをしてればよかったんじゃないですか。

下水道計画課長：

お気持ちは聞いてて分かるんですが、この施設自体が、先程、計画の降雨1時間58mmというのをご説明させていただいたのですが、当時この地区の、浸水の安全度と言うのか1時間52mmまでしかもたなかった。52mm以上だと浸かったものを、58mmにしてっていうことで雨水幹線を整備させていただいたんですけど、本当に繰り返しになって申し訳ないんですが、この幹線の能力と言うか、この考え方として、ここまでの、ハイウォーターになったときにも、効果があるという、結果的には満タンになってしまったと。

質問者 3：

納得いきません。

下水道計画課長：

そこが、逆に言うとバツと水が入ってバツと満タンになってしまったと、恐らく想定できるんですけど。

市民 3：

そうすると、設計自体が間違っていたのでは。

下水道計画課長：

そういうことではございません。多摩川の一定の水位に対して、安全に流せるように計画はしております。ただ、ここまでの状況っていうのは、この施設にも限界があったかなという部分は実際あると思います。

質問者 3：

だから、そういうポンプ制御盤っていうのを、もう少したくさん造って。できる様のように、工事をもっとやっていただきたいです。

下水道計画課長：

そうですね。なかなか、この雨水幹線自体も、長い期間、皆様にご協力いただきながら、

やっと出来たところですので・・・

質問者 3 :

来年、またこういう水害がおきたらどうするんでしょう。

下水道計画課長 :

先程、そちらにつきましても、繰り返しになって申し訳ないですが、できること、早くできること、中期的、あるいは長期的な視点でやれることって分かれていくというか、やれることって限られてきますので、そのやれる部分、短期的なものをまずやって、中期的にはこちらの地区につきましては、先程、バイパスの案のお話が出たと思うんですけど、こちらの低い地域の部分の水を、隣の排水区に少し持って行って軽減させようと考えを思ってますので、そちらを進めて・・・

質問者 3 :

早めにやっていただきたいのですが。

下水道計画課長 :

できるだけ頑張ってやりたいのですが、やはり工事伴いますので、何年かはかかりますので。その先も、長期的な視点で・・・

質問者 3 :

これから予算をとってとかって、この前、上丸子小学校の時言ってましたけど。それじゃ間に合わないと思うんですけども。

下水道計画課長 :

そちらの、バイパスの工事自体は、時間はかかるのはご理解いただきたいんですが。まず、来年の台風に向けて、我々としてやれること、やっていきたいと考えてます。で、今、何がやれるかっていう話のなかで言うと 1 つ、先程、ゲートの操作についても話ができました。それについても検証をして、しっかり、次の雨くるまでには、しっかりやりたい。少なくとも、来年の 3 月までにはきちっと整理をしたって考えてます。また、ゲートにつきましても、本当に危ない、あれだけの時に職員も行って操作をしていくという状況のなかで、その施設自体も、カメラであったりとか、水位計であったりとか、そういうものをしっかりと考えて付けていきたいと考えてます。あと、移動式の排水設備とか、そういうものについても用意して、短期的にできること、中期的には先程言ったバイパス管、そういうものをしっかりやっていきたいと考えてございますので、ご理解をいただきたいと思います。また、本当に時間がかかるものについては、申し訳ないというか、頑張りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

質問者 4 :

今の話の流れで、ちょっと確認したいんですけども。1 時間に 58mm の雨に耐えうる排水区に設計がなっていると思うんですけど、実際に山王-5 の資料を見ると、大雨警報の間、1 時間当たりに降ってる雨の量って、これは、単位を聞きたいんですけど、この紫色のと

ころって、これ 6mm って。

下水道計画課長

10 分で 6mm ということですね。

質問者 4 :

10 分で 6mm。

下水道計画課長 :

はい。

質問者 4 :

時間になると。

下水道計画課長 :

時間になると、1 時間ごとのやまによって変わるんですけど、だいたい、多くて 30mm 弱くらいだと思います。

質問者 4 :

で、その雨量に対して、ゲートを閉めなかったっていうのが、ちょっと私には理解できない。実際には川の水位が上がってきているのは、多分、分かっていたはず。その中でまだ雨が続くかもしれないからゲートを閉められなかった、今回は。失敗した。だから、次回からはゲートを閉めますっていうふうにしなさい、僕は、これ思えないんですよ、これ、資料は。実際には、雨ってそんなに降ってなくて、これ 58mm だと耐えられたんじゃない、っていうふうに感じるんですね、すごい。そうは思いませんか。

下水道計画課長 :

実際、この台風ではないんですけど、この施設が出来て、平成 30 年なんで、去年の 8 月なんんですけど、ちょっと大きい雨が降りました。

質問者 4 :

ありましたね。

下水道計画課長 :

はい。その時って、ゲリラ豪雨みたいな雨だったんですけど、時間換算すると 88mm の雨がこの地区にも降りました。

質問者 4 :

そっこのほうが降りましたね。

下水道計画課長 :

で、その時に、丸子雨水幹線は満タンになってますので、確実にこの地区の浸水被害を軽減しているというのは、この施設、間違いはないと思っています。

質問者 4 :

実際に今回は閉めなかったんですよ。その判断は、何で閉めなかったって判断したんですか。この、田園調布の水位が 7.6。これ基準なんですよ。

中部下水道事務所管理課長 :

10月12日の15時の時点で、丸子橋の上流側にあります田園調布(上)という水位観測所の避難判断水位7.6m。その時点で、まだ浸水は始まっていない状況でした。それで、こちらの丸子その1排水区に雨が降っておりまして、横浜地方気象台発表の気象予測がございまして。その予測が、お昼の段階、それと夕方の17時、18時ちょっと前に発表されているのですが、まだ、今後、台風がやってくるということで。今後、50mmから80mmの大雨が降る予報がございまして、そういった予報と降雨の状況とをみまして、避難判断水位7.6mのレベルの時点で、ゲートを閉めない判断をしております。結果的には、こういった甚大な被害が発生してしまってますので、手順のほうが、良かったのかっていう検証を今後、来年の3月までに行いまして、更に、被害をなくすことを目指して、どういうことができるのかっていうことを3月までにまとめていきたいと思っております。

質問者4：

実際には、あのゲートの開閉は、手動ですか。自動ですか。

中部下水道事務所管理課長：

手動です。

質問者4：

手動ですか。どのぐらいまで水位があがったら手動は。

中部下水道事務所管理課長：

設計上、機械のゲートの機械の性能上、今回、多摩川高水位になった、10.81mまで上がっているんですけど、その状態でも手動によって下げられるっていうゲートなんです。なんですけど、実際私たち職員が行って、作業した時点では、ハンドルを回して下ろすんですが、それが回らなかった。

質問者4：

下げれなかった。

中部下水道事務所管理課長

下がらなかった。1回目、2回目。

質問者4：

それ何時ぐらいですか。

中部下水道事務所管理課長：

時間的には・・・

市民4：

すいません、もうちょっと大きい声で。

中部下水道事務所管理課長：

はい、分かりました、すみません。1回目が22時55分です。

質問者4：

それ雨がやむ、直前ですね。

中部下水道事務所管理課長：

はい。2回目が13日の夜中の0時30分。

質問者4：

やんでる時ですね。

中部下水道事務所管理課長：

はい。

質問者4：

実際に冠水が始まったのを、確認しだしたのって、もっと前ですよ。

中部下水道事務所管理課長：

はい。

質問者4：

お昼ぐらいの、お昼過ぎの段階で、川の水がこうもう逆流してきているというふうに認識されてたんですか。

中部下水道事務所管理課長：

中部下水道事務所の方では、12日の朝から、上丸子山王2丁目地区のこちらの自治体様の前にありますマンホール、2箇所の水位の測定を朝から開始しておりまして、その他に、多摩川のゲートがあるところの目盛りを確認する作業をずっと行っておりました。15時45分に、南部沿線道路と南部線の間の方の、地盤の低いところで冠水が始まったというのを確認しております。

質問者4：

これはやっぱり、ゲートを閉めると、川が氾濫するかもしれないっていう危機感があつたということですか。閉めなかった理由。

中部下水道事務所管理課長：

川が氾濫するっていうのは考えておりません。

質問者4：

考えていなかった。どうも不思議なのが、多摩川結構広いのに、たとえば鶴見川。いろいろ見たんですけど、どこもそういう被害にあってないんですよ、今回。なんで、多摩川のこの辺の中原、高津、全部こっち、向こうの世田谷の方もそうですけど、世田谷は全部閉めたと聞いているんですけど、閉めて田園調布の支流が溢れたと聞いているんですけど。なんか、その辺の判断が、今回は個人的には納得できなくて。言えるところと言えないところとあるんでしょうけど。多分、皆さん、今後こういう事が起きた時に、本当に大丈夫なんですか、ということを確認したいんだと思うんです。またこれが起きると、もう住みたくないです、正直。でも離れられない人いっぱいいるし。何回か説明会にも行かれてるんで、皆さんの気持ちも分かると思うんですけど。本当に真剣に、どっからどこまでをやって、来年の台風が来た時、皆をどうやって守るかっていうのは、ちゃんと考えて欲しい。以上です。

質問者 5 :

この資料の 6 を見ると、これなんですけれども、地盤の高い低いということは、あまり関係なく、このマンホールの逆流したところの付近ですから、もちろん、浸水があるんですけど、この 4 つ点在しているマンホールっていうのは、他のものとは違うものなんですか。他は何であふれなくて、この遠い、この・・・

中部下水道事務所管理課長 :

こちらは、6 ページの丸が付いているところは、ご説明をするのに代表的な位置を示しているということだけです。それで、実際、溢れているのは、いろいろな、いたるところ、地盤の低いところのマンホールから水が出ているっという状況を確認しています。構造的には、みんな同じ様なマンホールの構造です。

質問者 5 :

地盤の高いところと地盤の低いところでは、マンホールの構造を変えたら、また違う結果になるのですか。

中部下水道事務所管理課長 :

マンホールの構造だけを変えても、各ご家庭からつながっている管ですとか、道路に降った雨を集水する集水ますとかがございますので、そういったところからも、溢れていますので、マンホールの蓋だけを変えても、効果が無いと考えています。

質問者 6 :

この辺りが溢水というか、水が溢れたのは、何時というふうに考えていますか。何時何分。

中部下水道事務所管理課長 :

先程、ご説明しましたが、南部沿線の低いところが 15 時 45 分で、その後、職員が、平成 29 年にも同じような道路の浸水がございまして、職員のパトロールの中では、それから間もなく、16 時ぐらいには、こちらの南部沿線から多摩川側のエリアも、道路冠水が始まったというのを確認しています。

質問者 6 :

失礼しました。15 時 45 分ですね、それで先程、ゲートを閉めるのには、樋管を閉鎖するには何分。1 分と言われましたか。

中部下水道事務所管理課長 :

はい。閉めるのに 1 分です。水が無い時です。

質問者 6 :

それが、22 時 52 分から翌日の 10 時 50 分まで、一生懸命閉めていたということですね。

中部下水道事務所管理課長 :

はい。ずっと、そのゲートの場所に職員が、ずっといたわけではないのですけれども。

質問者 6 :

だって、閉まらないから、閉めようとして努力してたんでしょ。いたんじゃないんですか。いないでどうやって。

中部下水道事務所管理課長：

いない時間もありました。

質問者 6：

自動じゃないのに、何で、いないで閉めれるの。

中部下水道事務所管理課長：

ハンドル操作が回らなくて、何か、異物の噛みこみなのか、今後、その原因を検証しないといけないのですけれど。

質問者 6：

それじゃ話にならないんじゃないですか。閉まらなくて、しかも、職員もいないといったら、どういうことなの。これ、あの考えて見ると、閉めようと思った時に閉めれば、それでこんな事件にならないんですよ。内水氾濫が予測されたとかね。いろいろ、ごちゃごちゃ言ってらっしゃいますけど、何の意味も無いことを言ってんじゃない。だって、閉らなかつたら、閉めようとして閉まらなかったなら、機械とかその構造が悪いというだけでしょ。あるいは、日頃の整備点検が悪かったとか、材木が流れてくるなんて、当たり前でしょう。材木が入らないようにすれば良いんだ。今までの説明会で何度か、今日で 2 度目なんですけど、何かまったく意味の無いことをあなた方はおっしゃっているんじゃないですか。内水氾濫とか、何か、何も意味が無いじゃん。閉めようと思った時、閉まらなかった。しかも、その前からもう溢れているでしょう。15 時 45 分から溢れているじゃない。閉め始めたのが 22 時 52 分、内水氾濫の恐れとか言って、その雨量は、雨量観測所は中原区役所と書いてありますが、私が中原区役所に行って聞いたら、雨量なんか観測していませんよ、中原区役所で。なんですか、この資料は。

管路保全課長：

区役所には雨量計がありまして・・・

質問者 6：

いや、観測していないと言ってます。気象協会のデータでしょ。という感じで言ってますよ。

管路保全課長：

市です、管理している・・・

下水道計画課長：

防災の観点で、川崎市の中に、雨量計を設置させているのですが、どちらにお聞きしたか・・・

質問者 6：

危機管理課。

下水道計画課長：

危機管理課ですか。それは、例えばパソコンとか、スマホとかで見るのも、この中原区役所の雨量観測所がございますので、ちょっと我々の方も確認はしてみますけど、あることは間違いないです。

質問者 6 :

でも、この数字は、中原区役所の数字ですか。

下水道計画課長 :

ええ、中原区役所の数字をつかっております。

質問者 6 :

区役所は測定していないと言っていますからね、よく調べてください。

下水道計画課長 :

よく調べさせてください。

質問者 6 :

だから、何か、今日はじめて、よく分かったんですけども。まったく意味の無いこと、我々、あなた方と議論していたように思いますね。閉めようと思った時に、閉まればそれで良いことなんです。ただ、その、閉めるという判断が妥当だったかどうかね。内水氾濫は起こりそうなのに、閉めちゃいけないというのは、よくわかりますよ。でも内水氾濫なんかが起こるような雨量じゃないでしょ、そもそも、全然。

管路保全課長 :

結果的に、そういうふうに、雨量が、そうたくさん降らなかった結果は、このグラフではあるんですが、7.6m にこの達した、3 時以降ですね、水位は上昇するんですが、それと同時に、気象庁の発表も、今後、その 50mm、強い所では 80mm 降りますよという、夜にかけて降りますよということの気象予報が発表されていたので、それによる閉めるによって排水先がなくなって、強い雨によって内水氾濫が起こってしまうと、いう懸念があったので、閉めないという判断はしていたところでございます。

質問者 6 :

さらにね。仮に内水氾濫が起こったとしても、起こることと。それから、多摩川から逆流することとの被害の程度は、どういうふうに考えていますか。

管路保全課長 :

それについては、今、もしも、それが降った場合、どうだったかというのは、今はお示しできない状態ですので、今後、そういうケース場合だったらどうなのかということをちゃんと検証して、そのゲート操作なり、それがちゃんと現場でわかるように、職員が行って、目視するだけではなく、ちゃんと水位計をつけて水位がわかるようにするとか、そういったことに、まず検証をしっかりと、それをやっていきたい、それが私どもの今の考えです。

質問者 6 :

もっともね、内水氾濫っていつても、雨水と汚水が混ざったものを流しているわけです

から、それも甚だ迷惑ではあるわけですよ。内水氾濫は確かに迷惑です。でも、多摩川からの逆流に比べれば、被害は少ないんじゃないですか。そういうこと比較衡量できないんですかね。

管路保全課長：

今、出来ていないということですので、それは、今回、多摩川の水位がここまで上がったのが初めてでございまして。その水位の影響を強く受けて、こういう広い範囲になっているということがございます。なので、しっかり、今回の事象も踏まえて、ゲート操作をどうすべきかというのを、ちゃんと今回の事象をしっかりまず検証すると。次に活かしたいと考えています。

質問者 6：

多摩川の水位が上がった原因に、小河内ダムの放水がありますね。これは川崎市に連絡あったんでしょ。なかったんですか。放水しますという。

中部下水道事務所管理課長：

連絡はありました。

質問者 6：

ありますよね。そしたら、水位が上がるのは当たり前じゃないですか。多摩川の水位が上がるのは。そしたらそれは、水位が上がることは、明らかなんだから、天気予報で雨降るかもしれない、かもしれないじゃないんだよ。もう、小河内ダムは、放流するんだから、確実に上りますよね。その確度っていうか、確率っていうかね。それ考えたら閉めるのが当たり前でしょ。

管路保全課長：

そうですね。小河内ダム・・・

質問者 6：

内水氾濫との比較衡量なんてしてる場合じゃないですよ。そんなのまったくの、屁理屈。

管路保全課長：

うちの方で、今回の放流量が、どうなりますっていうFAXをもらって、こндаけ出ますということは把握はしています。ただ、その放流量に対して、どのくらい水位が上がるかというのは、小河内ダムの放流量だけで決まっていることではなくて、いっぱい多摩川には川が入ってしまっていて、その流域でどのくらい降るかっていうことも、水位に非常に影響しますので、一概に小河内ダムの放流量だけで、どうしようかというのは、今のところではできないという。全部を見て、その水位、京浜河川事務所のホームページで水位が見れるんで、そこで一応判断しているというところです。

質問者 7：

あの、今回、相模川の放流って、私、ウェブサイトとかでよく目にしたんですけど、多摩川の放流って1回も目にしなかったんですよ。これはメディアに報道されてたんですか。

下水道計画課長：

詳細はよく分からない部分もあるんですけど、今回、例えば城山ダムについては、国のからみもあって、いろいろテレビとかも出てたと思うんですよね。で、多摩川の小河内のダムってのは東京都のダムですので、その辺で情報が少なかったのかなという感がございます。

質問者 7：

東京都のせい。

下水道計画課長：

都の水道の局の・・・

質問者 7：

東京都のせいなの。

下水道計画課長：

いや、せいとかではなくてですね。

質問者 7：

相模川は、テレビとかでもテロップで流れたりとか、ニュースサイトとかでも出たりとかしてたんですよね。多摩川はまったく目にしなかったんですよ。それは、東京都のせいですか。

下水道計画課長：

いや、せいとかではないんですけど。ただ・・・

質問者 7：

先程、放流するという情報が出ているというお話がありましたけども、川崎市としては、それを、公開するとか、そういうこともしていない。上流の話だから。

下水道計画課長：

そうですね・・・

質問者 7：

まあ、正確な答えを頂きたいわけではないんですけども。あの、結局、雨水だとか内水氾濫だとかおっしゃるので、あくまでも、私たちの足元の話じゃないですか。で、上流の影響をどうしても受けてしまうっていうのもあるわけなんですけれども、やっぱ、そっちの方がどっちかって言うと、今正直、気になっているんですよね。今回、多摩川の水位が上がったから、まあ逆流した、じゃあゲート閉めていたら、内水氾濫だったらどれくらいの水位だったか。申し訳ないんですけども、自分たちの足元しか見ていないようにしか思えなくて、周りからのどういう影響を受けるのか、先程あの、雨水幹線が耐え切れなかった。貯め切れなかったとおっしゃっていましたが。じゃあ、貯められなかった、耐えられなかったら、どんな被害が出るのか、そういうところ、しっかり検証、ちゃんとしたいんですよね。で、まあ、いろいろお聞きしていると、なんかこれは出来てるけど、これは出来ていませんとかっていうのが、ぼろぼろと、正直出ている、というのもありま

すけれども。想定外だからとか、そうでなくて、想定外の雨量だったら、こんな被害が出るんじゃないか。それは予想できると思うんですよ。どこまでの被害の想定を広げたいかって言うのは、これは難しいかもしれないですけど。自分たちの予想を超えたらどうなるかは、想像できますよね。そこをしっかりと検証していただきたいんですよ。その流れはやっぱり、実際出てるのが、このゲート閉の操作で。この操作って、すごいグレーですよ。これで、皆さん本当に判断できるんですかって言いたくなるような、そんな判断基準、じゃないですか。で、結局、総合的に判断で、全部締めている様なもので。総合的に判断っていうのは、その時に判断する人間に全てお任せしますってだけですよね。先程も、操作手順の見直しとかを短期的にやっ行って行こうというお話があって、それは是非やって欲しいんですけど、このゲート操作手順が長年、この状態であったということが、じゃあ、見直した時に、これと同じレベルのものに見直されても、それは困るんです。極端な話、素人でもこのときはこうすればいいと判断できるような操作手順とか、そういうのが必要です。もう、なんて言うんですかね、目の前で多摩川があふれそう、道路も冠水している、それを、皆さん確認されているにもかかわらず、これからはもしかしたら大雨が降るかもしれないを優先されているんですよ。それ目の前の火事をほうっておいて、これからはもしかしたら火事になるかも知れないを優先しているっていうのと同じじゃないですか。たぶん、基本的に考えている方向が違うと思ってるんですよ。その辺をしっかりと改めてもらわないと、短期的にももちろんそうですけど、長期的にも。ものすごく心配なんですよ。なんで、このゲート操作を作った部署の方とか、なんかそういう方たちもいると思って、それがまたどこかに、また検証をお願いするなり、なんなり、組織的な仕方をすると思うんですけども、それらが、みんな、たぶんスルーするだけ、じゃ困るんですよ。これって公開されているんですけど、こういうゲート操作手順。

管路保全課長：

公開はしていません。今回、手順書の公開を、今までは公開していなかったんですけど、説明会で見せてくれというご意見がありましたので、ホームページにアップしている状況です。

質問者 7：

今、アップされているんですか。

管路保全課長：

今、されています。はい。

質問者 7：

じゃあ、それがどう見直されたかっていうのも、結果は見れるようになるんですかね。

管路保全課長：

今後、見直しした場合ですか。

質問者 7：

ええ。

管路保全課長：

はい。今後、行って、検証は、どの段階のかってことはまだ、お示しできないんですけど、皆様には結果を見ていただきたいと思ってますので、その段階では、ホームページで見直した結果っていうのは、見ていただければと考えています。

質問者 7：

ポンプ車にしても、これの見直しにしても、これは本当に短期的な対策として早急をお願いしたいと思います。

質問者 8：

ゲートの閉鎖っていうことなんですけど、そもそも降雨量云々っていうよりも、あの水っていうのは高いところから低いところへ流れるんだから、もう多摩川の水位がゲートにかかった時点で、もう止めるべきじゃないでしょうか。それが一番だと思うんですよ。あの、そうすると、いくら、内水とかっていっても、多摩川の水位が高かったら流れないですよ。だと思えますよ。だから、そういう風にあの、ゲートの閉鎖っていうのは、多摩川の水位で判断された方がいいのかなと、あの、単純に思っています。それと、あと、多摩川の河川敷っていうのは、国が管理しているんですか。で、あとは、多摩川の水の流れるところ、ああいうところをもうちょっと深く掘るとか、砂利が今、今回のでもかなり泥が積もってきていると思うんですよ、だから、これからちょっとした雨でもすぐ水位があがってしまうと思うので、やっぱり多摩川のあの、もっと深く掘るっていうか、それでどれだけあの影響があるか分からないけれども、それがまず今後、大優先していかなきゃいけないことじゃないかななんてと思います。

下水道計画課長：

河川敷のところのお話なんですけど、多摩川の河床をもっと掘ったほうがいいんじゃないかということで。これにつきましては、他の住民説明会させて頂いた時とかも、ご意見、頂いてまして、我々、これからゲートの改良のほうに協議とか行っていくしますので、国のほうには、今一度、一回、京浜河川事務所のほうには、その辺のお話はしております。国のほうも、今回の台風を受けて、こういう大きい台風を受けた後っていうのは、河床の測量とかをするらしいんですね。その中で、河床が、例えば上がったようなところは、もう少し掘ったほうがいいとか、そういうところを、見ていきたいと、いうようなことは言っておりました。

管路保全課長：

あと、多摩川の水位が高ければ、閉めるべきじゃないかというご意見。今回の事象で、こんなに被害が出てしまったということは事実で、強く、重く受けとめてます。なので、今回、高さとかこんなに被害が出たということはもう反映させて、多摩川の水位を考慮してゲート操作基準を見直して行きたいと考えてます。

質問者 9 :

丸子ポンプ場の方にも、似たような排水管がある、あれって同じような物なんですか。

施設保全課長 :

丸子ポンプ場では、汚水の送水と雨水の排水をやってまして、そこにも同じような樋管があります。丸子ポンプ場のポンプで、雨水を多摩川に出しているんですけど、まず、そこに樋管がある。そこについては、ポンプでどんどん排水をしているものでございますので、多摩川の水位が上がっても、基本的には閉める、という事はしないところでございます。あの、内側にポンプとかがありますので、そこに何かしら支障があれば、閉めるんですけど、それ以外は、ポンプで排水している限りは、閉めることはない、中に入ることがない、そういった構造になっています。

質問者 9 :

他の、あの、なんだろ、そういうとこの排水管みたいなやつで、今回、閉めた所とかはあったんですか。

管路保全課長 :

今回、被害があったのが、この山王排水管以外に、他に 4 箇所ございます。他にも、全部ゲートは閉めておりません。全部、開けて・・・

質問者 9 :

それは、閉めようとしたけれども、閉らなかった。

管路保全課長 :

いや、やはり降雨があつて。状況としては、これからから閉めるって判断をした時には今後、強い雨があるっていう気象庁の予報がございまして、はい、その判断は同じでございます。

質問者 9 :

じゃあ、ここだけ、閉めようかなってなって。

管路保全課長 :

そうですね。他の所は、下水道の方式が違ひまして。他は分流式下水道と申しまして。汚水と、生活雑排水、トイレとか、お台所の水とかが流れる汚水管と、雨水を分けて排水しているところです。こちらは、合流式といひまして一緒になっていると、汚水と雨水と一緒に流れる管です。で、多摩川の水位が高いことによって、この地区、丸子ポンプ場に通常汚水が流れて、雨が降って、ある程度の量がいきますと、希釈された汚水も雨水と混ぜて多摩川に出ているという構造で、多摩川の水が、水位が、雨が降っていない状態で多摩川の水の影響を受けると、ポンプ場に全部流れていってしまったりするというところで。それは、水流によって水没とかあると、丸子ポンプ場のあるエリアと、こちらのエリアとで、ポンプが故障してしまうと、汚水の排水がずっと、当面の間できなかつたりとか、あと雨が降っても、隣のところの排水区の雨のポンプで、排水できないとか、ということがあつて、生活に非常に大きな影響が出てしまう。ということで、丸子ポンプ場に流れてる

のは、まず防ごうということで、判断をしたとなっています。

質問者 9 :

あと、もう 1 点なんですけど、何か、4 時ぐらいに、夕方、車を移動してくださいみたいな来てくださったんですけども、その前に、何かあの。ちょうどこの前の道のところを、オレンジの着た方が、排水作業みたいなのをしたように見えたんですけど、あれは何をしたのでしょうか。なんか、ホースみたいななの見えたんですけど、気のせいですか。

中部下水道事務所管理課長 :

排水作業は私どもでは行っておりませんので。避難、車を避難させてくださいっていう呼びかけは、うちの職員 6 名ぐらいで、インターホンを押してお声をお掛けしたっていうのは、私たちがやっております。

質問者 10 :

ていうか、聞いてて不思議に思ったのがね、雨降るからゲート閉めなかったっておっしゃってましたよね。雨降らないで、この辺の水位が上がるときって、自然的な現象ってどういう時なんですか。そんなことってあり得るんですか。

下水道計画課長 :

そういうときがあるのかっていうご質問なんですけど、例えば多摩川の流域ですと、当然川崎市よりも全然大きくてですね、当然いくつもの川があり、流れ込んで、そこの降った雨が多摩川に集まって流れるということで相当、例えば今回の台風じゃないんですけど、やっぱり台風が来たときってのは多摩川の例えば上流域にバーッときて川崎市にそんなに降らなければ、多摩川だけがバーッと上がるような現象が、そういう時にはゲートは手順に沿って、判断して閉める時もあります。ですので、今回は多摩川の水位が、これからダムの放流されたら、そういうところも聞いてますので、そういうところは上がってる中と、この今回の雨が結果的には少なかったんですけど、そういうところを見ながら、今おっしゃったようにゲートの件ですね、というところについてしっかり考えてかないといけないなと思います。

質問者 10 :

実際、この辺って 5 時ぐらいですね、かなり浸水して、これ見ると 3 時ぐらいにはもうやんなかったよって感じなんですけど、その時点で雨って、この辺ほとんど降ってないんですよ。で、ゲートの閉鎖開始したくらい、夜の 10 時ぐらいとか、実際台風が来たときですね、その時ってもう、この辺ってもう腰の高さくらいまで浸水してたんですね。だから、台風のせいだったら、この地域だけじゃなくって、この辺の町全部が、あのほかの地域も浸水してるはずなんですよ、よその被害があった方々の、よその県とか。じゃなくても、夕方の台風が来る前に、ここら辺が水浸しになってるっていうことは、これ今回台風が原因じゃなくて、どう考えてもゲートの開けとか閉めるとかの問題で、そういうふうになっちゃったんじゃないですか。そうじゃなければ、夕方の時点で、確認したけど、閉鎖行わ

なかったって言うのは、見れば雨が降ってないから、まあやろうと思えばできる。で、閉まらなかったって言うのも、まだその頃はそんなになってなかったから、夕方見た時は多摩川もさっきの写真のところも、いっぱいまで来てたから、実際どうなのかよくわかんないですけど。あとあの、やっぱり排水溝の辺の、まだ下、泥残ってるんですよ。道路沿いのところとか全部。ああいうのって、どなたが片付けてくれるのかなって、ああいうのも、中泥詰まると、また、ここんところ雨しよっちゅう降ってるじゃないですか。ああいうのも、続くようだったら、結局川に流れない。下水に流れなかったら、やっぱりまた溢れてきますよね。ああいうのも、どかしていただけるのかなって。

下水道計画課長：

もし場所とか、言っていただければ、我々、直接下水ではやらないんですけど、道路公園センターのほうに伝えて、やることにはなるんですけど。そこは、こういったところがまだ、泥たまってるとか、そういうご意見をいただければ・・・

質問者 10：

我々も中、開けられないんで。どこに詰まってるか、我々もわからないんですよ。

下水道計画課長：

協力して、我々やっていきますので、中原の道路公園センターにも、そういうご意見いただいてるって話はしてますので。その中で、これからもやっていきたいなと思っております。

質問者 11：

あの皆さんの意見と同感で、あれなんですけど、先程、今の男性の方、言いましたけども。ここの道路が、もう夕方、6時ぐらいから、かなり水が上がってまして、もう10時なんかかって言ったら、男性の大人の方が歩いているのが、胸まで来てたんですよ。もう既に。そうすると、もう怖くて怖くて。見てびっくりっていう感じなんですけど、この時間帯に、22時52分ゲート閉鎖の開始、これはあくまでも、あくまでもじゃなくて、遅いです、完全に。もっと早くやるべきですね。そんなに被害がなかったと思います。はい。すごい、皆さんこの辺の人たちは、すごい恐怖を感じて、ええ、かなりあれでしたので。はい。被害が、はい。

市民 11：

はい。ここにいらっしゃる方ってのは、実際にほら、ここにいるわけではないから、その状況の時って、どんな感じって、はっきりはわからないじゃないですか。地区によっても違うと思いますし。そういう時って、警察とか消防みたいに電話したりとかすると見に来てくれるようなシステムとかあってないんですかね。救急車とかパトカーって来てくれるじゃないですか。あの緊急性がある時って。で、もう例えば夕方、この今回の件だったら、夕方頃、この辺もうすごいんだよと、どうにかしてくれないかって言ったら、見に来ていただいて、で、その時に、ここはちょっとまずいなって思うのであれば、閉めるとか開け

るとかって可能じゃないですか。そういうシステムみたいなのを、作っていただいて、やればそんなにお金とか時間もかからないで対応していただけると思うんですよね。それだったら、工事するから何年もとか、予算だとか関係なく意外とすぐ対応できるじゃないですか。そうしていただけると、やっぱり来てもらって大丈夫だよって言ってもらえれば、我々も安心できますし、これはちょっと逃げたほうがいいっていうのであれば、今回、命にはかかわらなかったですけど、あれよりも 50cm 高かったら、亡くなる方とか出てきちゃう、レベルですよ。そうしちゃうと、もう、ここで話するとか、ごめんなさいとかで済む話じゃなくなっちゃうと思うんですけど。そういうシステムとかあると我々もちょっと安心できるかなって思います。

下水道計画課長：

ご意見ありがとうございます。今回、この見直しの中で、そういう体制とか、そういう市民の方からの、今みたいなご意見とかも、反映できるようには考えていきたいと思しますので、よろしくお願い致します。

管路保全課長：

あと、例えば、道路、下水が溢れてるとか、と言うのは、中部下水道事務所の方にご連絡いただければ、見に来たりはしますので、そちらのほうにお電話あれば。

市民 11：

できればね、消防とか警察みたいにね、わかりやすい番号とかね、ああやって、ほらなんかあれば、だれでもどこでもみたいなシステムがあれば、ね。

質問者 11：

あの、すみません。今、あれしてますけど、各地区の消防団の方も、その時は、結構ていうか、人数が分団からもう、あの救助とか、被害のあれで、あの日は出てます。それで、あの、救助に当たり、ゴムボートを出した時の消防署の人達のあれとかの、あれで一緒に手伝いをしたり、実をいいますと、うちの主人も消防団で、それでもう 5 時から本部に出てまして、うちが床上になっても、うちの主人は、皆さんを優先で、うちには戻ってこないんですよ。そういう状態でしたので、もう夜中の、夜中って明け方の 3 時頃までは、戻ってきませんでした。そういう状態もしてることはしてるけど、やっぱり間に合わないわけですよ、水が上がっちゃって。うん、一応そういうことはあります、はい。

質問者 12：

あの、今日、私ね、説明会、あちこちで聞いて、何回も聞いて、あなた方と顔を合わしてのこともありました。覚えてるんですけど、ただ、説明会の中でね、歯切れの悪い回答をするんですよ。これは私はね、立場上、やむを得ないというふうに思ってます。で、やっぱり、あの断定的なことを言えばね、後々、責任を負わなくちゃいけないから、なかなか言えないんだろうな、というふうに思います。しかし、あなた方が、市長なり、市議なりにね、本当はこうなんですって話をね、きちっとすることが、私は重要だと思うんです

よ。で、今回の問題はね、どう見たってね、逆流が原因なわけよ。その逆流について、あなた方はね、歯切れの悪い回答しかしてないんですよ。どこの説明会でも。で、私は、あの、それをね、市民の前ではいいですよ、それでも。ただ、市議だとか、市長にはね、率直に話して、本当に市民が困ってんだと、市民が被害者なんだと。で、いうことでね、ぜひ市として手を打っていかなきゃいけないと。で、既に色んな手をね、打ってくれてはいますけれどもね、基本がね、まだなっていないですよ、市の。で、市としてね、責任があるんだと。で、市として面倒を見るんだと。いうことを市長がまず言わなきゃ話にならないと僕は思っているんです。でそういう段階がね、来年の3月頃には、ほぼ結論を出したいというふうに、市長は言っているそうなんですけれどもね。その市長が判断するにあたって、あなた方、官僚はね、市長にきっちり言ってくれないと困るんです。で、まあ、何回も、夜来てね、皆さんの話を聞いてきたから、よく分かっていると思うんだけど、そこそこをまず、やっていただきたいというふうに思うんです。で、あの、逆流の話ですけどもね、だいたいマニュアル自身が問題ですよ、あのマニュアル見ると。逆流はしてもやむを得ないようなマニュアルになっているんですよ。他の市ではね、ああいうマニュアルでもないマニュアルもあるし。で、いうことでね、マニュアルに従って、あの処置したんだと、実際、作業している人達は。だからその実際、水に浸かってね、雨の中やった人達をね、私は責めるつもりはありません。あの、マニュアル通りやったんだから。ただ、それを逆流してしまうようなマニュアルをね、今まで放置されてきたというのがね、問題でこれからそこを良く直していく必要があるというふうに思います。で、マニュアルを直すと同時にね、やっぱり、今のような水門の扱いね、手動で開け閉めするっていうのは、とんでもないよ、この時代に。ね、あの、遠隔操作ができて、遠隔で監視できるような、そういうところまでね、やるべきだと。かなり金はかかるけどさ、この被害を考えたらね、そのぐらいの金はね、市としてね、我慢してやらなければいけないというふうに僕は思います。大変でしょうけどね。今日だって何回目か知らないけれども、連日連夜、あなた方は、そんなに寝ることもできないでやっているんだと思いますけれども。しかし、市民から見るとね、まだまだ不十分だと。本当に市民の立場にたってね、被害者の立場をね、考えてやってくださいというふうに思います。以上です。

総務部長：

歯切れの悪い説明になってしまって、検証中でございますので、どうしても完全に言えない部分があって、皆様のご質問、お気持ちに十分に答えられないところは、本当に私どもも心苦しいところでございます。そのように言っていただいて、ありがとうございます。市長、議会への報告なんですけれども、いただいたお話を随時、報告をしていますし、議会に対しても報告をしておりますので、今後も、今日いただいた声も含めてですね、しっかり、皆様の側に立った気持ちを報告のほうをさせていただきたいと思っております。ゲートのマニュアルとか、ゲート操作のマニュアルとかそういったものも、今、今日もいろいろご意見いただいています。他の説明会でもいただいていますので、そうい

ったことをしっかり今後、検証して、今、検証しているところですので、お時間をいただいて、見直しのほうをしていきたいと思っていますし、来年度予算に向けても、繰り返していきます短期的に出来ることとかそういったものは予算措置をして、あと国の補正予算というものもあると聞いていますので、そういったものもしっかり活用しながら出来ることをスピード感を持ってやっていきたいと思っております。

質問者 13 :

ゲートのクローズは、過去に実績はあるんですか。今までゲートを閉めたことってというのは。

中部下水道事務所管理課長 :

過去にはゲートを閉めたことはございます。

質問者 13 :

どのぐらい前ですか。

中部下水道事務所管理課長 :

直近は、昨年、降雨がない状態で、多摩川の上流域の小河内ダムの放流があった場合とか。こちらは、晴れている状態で操作を行っております。

市民 13 :

え、去年ですって。いつっておっしゃいました。

質問者 13 :

実績が無い訳では、ないんですよ。

中部下水道事務所管理課長 :

閉めることは・・・

質問者 13 :

直近でも、あったけれどもってことですよ。

中部下水道事務所管理課長 :

去年、平成 30 年 10 月 1 日の日、こちらが、晴れているんですけども、多摩川だけが水位が上がってきて、その下水管の中の雨水吐の堰を越えて、入ってくるような状況になって閉めたという。

市民 13 :

1年ぐらいじゃ、色んなものが詰まって。

中部下水道事務所管理課長 :

そういうことではなくて、去年閉めた状態はそこまで多摩川は上がっておりません。今回のように、10m 近くまで上がったという状況ではなくて。昨年は、多摩川の水位が田園調布で 6m なので、山王排水樋管の現場では 5m ぐらい。今回の台風 19 号の最高水位の半分ぐらいで閉めております。

市民 13 :

平成 29 年の 10 月 23 日、台風 21 号の時はどうだったんですか。

中部下水道事務所管理課長：

はい。台風 21 号の時は・・・

市民 13：

閉めたんですか、閉めないですか。

中部下水道事務所管理課長：

浸水が発生するまでは、閉めておりません。

市民 13：

始まってから、閉めたんですか。

中部下水道事務所管理課長：

浸水が、台風 21 号の時は、早朝 7 時過ぎに浸水をしていて、その後、晴れてきましたので、その時点で閉めております。

市民 13：

閉めたんですね。じゃあ、閉めなかったから、浸水したんですよね。今回ほどでは無いんですけど、浸水はしました。

中部下水道事務所管理課長：

そうですね。29 年の時も、浸水被害が発生しておりまして、浸水被害の発生した後・・・

市民 13：

浸水してから閉めた。

中部下水道事務所管理課長：

後に閉めた。

質問者 13：

じゃあ、基本的に、台風の時、雨の時は閉めないんですか。

中部下水道事務所管理課長：

そうですね、降雨の恐れがある場合には・・・

質問者 13：

そういう時は閉めたことないみたいな話ですけど。

中部下水道事務所管理課長：

今回、そういった操作手順でこのような被害が発生していますので。

質問者 13：

ダム放流みたいに水位が上がった時だけ閉めるけど、一番上がってくるような台風みたいな時でも、雨降っちゃうと閉めない。これからも、そうなんですか。

中部下水道事務所管理課長：

それを、今回、大変な被害が発生しておりますので、今回の事象をきっちりと、検証しまして、操作手順の見直しをしていきます。

市民 13：

今の件なんですけれども、皆さん方が反省して検討するのはいいんですけど、県とか市町村に対して、国土交通省から指示というか、指導はあるでしょう。ないんですか、あるはずですよ。知らないの。皆さん知らない。何かな。国土交通省の指導に基づいて仕事やっているんじゃないですか。

管路保全課長：

多摩川の下水道施設として、多摩川を管理している国土交通省の方に、こういった管を設置させてくださいと言って、国のほうに許可を貰って、私どもで管理していることになっていまして、特別にこう、指導というものは・・・

市民 13：

ないんですか。そうじゃなくて、樋門を閉める場合はどうか、操作員が退避する時は必ず門を閉めてから退避しなさいとか、いろいろ指示があるでしょう。知らないの。

管路保全課長：

国土交通省からは、川崎市の操作手順に基づいて、操作しなさいということがありますが・・・

市民 13：

じゃあ、川崎市の手順は、国土交通省からも認められているのですか。

管路保全課長：

操作要領というのがございまして、それは国のほうに提出しております。

市民 13：

これでOKと言われているの。

管路保全課長：

操作要領。そうですね。

市民 13：

マニュアルという言い方をしていますけど、そういう時代ではないんじゃないですか。しっかり、国土交通省からこうしなさいとか指示があるでしょう。あなた方は、まあ、特別区だからとか、すごく偉いのかもしれないけど。

管路保全課長：

そういったことではなく、河川管理者は河川管理者で、おっしゃったとおりに、河川が管理している水門があつたりはします。それは、どういった場合にどうしなさいというのはあるのですが。下水道施設として、許可を貰っているものについて、今回のこの樋管もそうなんですけど、ゲートもそうなんですけど、それは下水道管理者が管理するということで、それとは分けてあります。ただ、その河川の管理している操作の要領とか規則とかがございまして、それは、今後、市の手順を見直すにあたっては、そちらも参考にしながらやっていくべきと考えております。

質問者 14：

あの、何回にもわたってこう、浸水してるんですよ、ここはね。だから、実際、皆さんこう、床上浸水されて、非常にこう、財政的にも、労力的にも大変な状態なんですよ。で、その中でね聞こえてくることはね。どうせまた来ますよ。ね。また、また氾濫しますよっていうんですよ。なんか、そういうことを住民の人達に言わせるような行政ではちょっとまずいんですよ。もう二度と再びもう、浸水はさせませんと、ちゃんと言ってくれないと、直すにも直せない状態の人を何人か聞いてますよ。だから、本当に、あの、先程、こちらの人も言ったようにその、市としては本気になって、そういう氾濫が起きないようなね、対策をしっかり、とっていただきたいというふうに思っています。是非是非。

下水道計画課長：

今、おっしゃられたとおり、我々といたしましても、再び起きないようにやっていきたいと思っています。やること、繰り返しになっちゃうんですけど、短期的に即効的に出来ること、中期的に出来ること、長期的に出来ること。そういうものは、どうなのかっていうのはしっかり整理して、少なくとも即効的なものについては、次の台風の時期前までに、しっかりとできるように、年度末にですね、方向性、方策しっかりととりまとめて、皆様にお示ししたいと思っております。よろしく願いいたします。

市民 14：

そういう、決定したことを、何らかの方法で、公表していただきたいと思います。

下水道計画課長：

今回の樋管の地域の浸水の、最終的な検証というか、今後、どういうふうにやっていくかというものを、きちっと、とりまとめて行こうと思っています。その結果については、こう、市の中だけっていうことではなく、きちんと、市民の方にわかるように、今も、例えば議事録ですと、今、局のホームページに載せさせていただいておるんですけど、どういった形になるかわかりませんが、そういう形とかで、わかりやすく、できるようにしたいとは思っています。

市民 14：

早めに。早めに。なにしろ、早くです。早く。

質問者 15：

あの、本当に素人考えなんですけど、短期的な対策として、例えば、マンホールから水が今回、かなりあがってましたよね。ああいうところに、ポンプ車というか、放水車というか、そういうものを10台くらい、こう、集めて、こう、川のほうにでも流せないんですかね。もう本当に困るんですよ。同じことが起こると。川崎市の中でも一部だから、そういう車を集めることはできるんじゃないかと、素人的には考えるんですけど。

下水道計画課長：

なかなか、ポンプ車といいましても、色々な用途がございますので、今回、このゲートの操作についても、どういった形がいいのかというのを改めて、見直していくということ

は説明させていただいたんですけど。その中で、ポンプを入れて、多摩川のほうに吐くってということも考えてますので。その中で、今、まだ検討を始めたところですので、これから、3月までにやっていく中で、どういった形が一番良いのかってというのは考えていきたいと思っています。

市民 15 :

2度と起こさないって強い決意でやっていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

質問者 16 :

総合的判断ってというのは、閉める、閉めないって言うことの判断なのか。先のこと、浸水して、補償とかそういうことに関わってまでの総合的なのか、ただ門を閉めないって言うことの総合的判断なのか、どこまでの期間の総合的なのか、そこを聞きたいんですけど。それは、閉めなかったら泥が入るから、こうなるじゃないですか。泥があるから、じゃああの、行政のほうで、これだけの補償ができるっていう総合的判断なのか。閉めたら、もう泥はそれ以上こないから、これくらいの泥がたまるかっていう総合的判断で、これくらいの補償ができるかとか、そういうことの総合的なんですか。それとも、ただこれ泥をこさせないとか、水が、水位があがらないって言う、その総合的、物質的な総合判断ですか。その、この後の、補償まで含めたすべての総合的なのが、ちょっと知りたいんですけど。

中部下水道事務所管理課長 :

総合的な判断というのは、補償までを考えたものではございません。その時点での、降雨の状況とか、水位測定しているマンホールの中の水位ですとか、台風の進路予測ですとか、そういった情報を元に、総合的に判断するという意味ですので、ゲートを開けっ放しにしたら、泥が流出して、その泥の補償をどうするかまでは考えておりません。

質問者 16 :

補償のところはあれなんですけど。泥がこれだけたまるって言うことは、総合的には判断されてたんですか。

中部下水道事務所管理課長 :

そこまでは、判断中にありませんでした。

質問者 16 :

それが、あるとよかった気がします。

中部下水道事務所管理課長 :

ありがとうございます。

質問者 16 :

それで、補償のことなんですけど。これって、今こういう説明会でこう言っても、回答を求められないじゃないですか。でも、例えば、保険に入っていない方とかもいるみたいなんですけど、その人達は、行政に対して、市なのか、区なのか、なんらかにあの、相談と

かそういうできる窓口みたいなものってあるんですか。川信からはなんか来たんですけど。企業みたいなのかなんですけど。そういう、一般の人に対する窓口みたいのは設けられる、あるんですか。

市民 16 :

区役所の4階かな、3階でやってるよ。

質問者 16 :

区役所でやってるんですか。

市民 16 :

うん。常時やってるから。

市民 16 :

個人でもやってる。

市民 16 :

うん。個人でも受けてくれる。相談に乗ってくれるから。

質問者 16 :

相談と、その補償的ものを多分・・・

市民 16 :

そこまでは、いかないんじゃないかな。

質問者 16 :

保険入ってない人は、そこまで求めちゃうかもしれないですよ。そういう人達は、例えば、相談に行くのは、役所のところに行けばっていうことなんですよ。

市民 16 :

そうそう。色んな助言をもらえるよ。こうしたらどう、ああしたらどうとか。

質問者 16 :

助言もらうよりも、それたぶん、実質的に、いくら補償されるんだとかいうほうが・・・

市民 16 :

そこが、一番問題だよな。

質問者 16 :

それが一番喜ばれると思うんですけど。とりあえず4階に行けばいいですか。

市民 16 :

とりあえず行ってみたら。

市民 16 :

なんか、今の件でも、あの、下水道の皆さん方は、もう本当に説明会、何度も何度もやって、まあ、ある意味不愉快な思いもされてるでしょうけども。川崎市全体としては、我々住民に対して、どれだけ手を差し伸べてるのかなっていうことでは、多少不満、多少じゃないな、大いに不満がなんですよ。ヘドロ1つにしても、道路からは入らないとかと、個人のところでは、金払ってでも、自分でやれっていうわけでしょ。自分、なんか、えら

そうですね。市民に寄り添ってないなというふうな感じなんですね。ついつい、愚痴めいた感じで、発言になっちゃうんですよ。すいません。

総務部長：

いえ、そのようなことは。こういったところで、色んなご意見をいただきまして、私たち下水道部の者ですので、対応できない部分もございますけども、いただいたお話というのは、しっかり、関係局のほうに伝えてまいりますので、言っていただければと思います。

質問者 16：

よろしく願いいたします。

司会：

他にございますでしょうか。それでは、最後に総括的な事項を下水道部長の鈴木のほうからお話をさせていただきたいと思います。

下水道部長：

本日は説明会ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。先程、大畑のほうから、冒頭にもあったとおり、今回の件に関して、我々は大変、重く受け止めているところでございます。今日も、皆様から貴重なご意見であったり、厳しいお言葉であったり、いろいろいただきまして、また改めまして、我々のほうもしっかりと取り組まなければいけないなと感じておるところでございます。今回のゲートの操作につきましては、我々としても、総合的に判断して、厳しい状況の中で判断したところではございますけれども、結果的に、これだけの被害を出してしまったというのは事実でございますので、この点については、しっかりと原因を検証して、先程から言ってますとおり、短期的に出来ること、ゲートの改良であったり、その操作基準であったり、その辺を早急に直しまして、それと共に長期的にもできること等々ございますので、そちらのほうも検討を進めまして、3月には皆様にお示しできるような形で進めて行きたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

司会：

本日の質疑応答の内容等につきましては、上下水道局のホームページで、後日公表をいたしますので、ご参考にしていただければと存じます。なお、ホームページ、ご覧にならない方につきましては、お帰りの際、受付にてお知らせいただければ、ご対応いたしますので、よろしく願いいたします。これをもちまして、本日の説明会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。